

厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）
分担研究報告書

研究分担者 上村 悠
国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター

研究要旨

国立国際医療研究センターに通院する薬害 HIV 感染者における DAA 治療後の HCC 発症を調査した。

A. 研究目的

慢性C型肝炎の治療は直接作用型抗ウイルス療法(DAA)の登場により100%に近い治療効果を期待できる様になった。HIVの重複感染により、IFNのHCV治療効果は低下するが、DAAの治療効果は非感染者と同等である。IFNにはSVR後の発癌抑制効果があるが、DAAに発癌抑制効果があるかは議論されてきた。当センターでのHIV/HCV重複感染者におけるHCC発症の実態について調査を行った。

B. 研究方法

国立国際医療研究センターに通院するHIV/HCV重複感染薬害エイズ患者を対象とした。1997年4月1日から2021年12月31日までにIFNフリーのDAA治療を終了した症例について、SVR達成後、2023年3月31日までのHCC発症について観察した。後ろ向きの非介入な解析であり参加者に不利益はないと考えた。プライバシーに配慮をしてデータを取り扱った。

C. 研究結果

32名が対象者となった。血友病Aが25名、血友病Bが5名、von-Wilebrand病が2名だった。年齢の中央値は45歳で、肝硬変を12名(38%)で認めた。総観察期間207.7人年で、HCCの発症を1名認めた。(罹患率 0.48/100人年)

D. 考察

本研究でHCCを発症した症例はSVR達成後約5年の時点で診断となった。特にインターフェロンによる治療後に3年以上が経過してからもHCCを発症することが知られており、DAAでも同様のデータが蓄積されている。本研究の結果からもDAAによる治療の後、SVR後、長い期間を経てHCCを発症する可能性があり、治療後のHCC評価は継続的に行う必要であることが示唆されたSVR時に肝硬変がある症例、なくともその後進展する症例では、画像検査だけでなく定期的なAFPの測定を組み合

わせることが早期診断に有用であることが示唆された。

E. 結論

SVR後、長い期間を経てHCCを発症する可能性があり、治療後のHCC評価は継続的に行う必要であることが示唆された。

F. 健康危険情報
なし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし。
2. 学会発表
第37回日本エイズ学会学術集会・総会
口演

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし。
2. 実用新案登録 なし。